失語症学演習Ⅰ

［演習］ 第３学年　前期　必修　1単位

《担当者名》若松千裕　wakamatsu@hoku-iryo-u.ac.jp

【概　要】
失語症臨床において、言語聴覚士として基本となる失語症の検査法・評価法・診断法・治療法を学び、リハビリテーションを行うための実践的能力を身につける。

【学修目標】
＜一般目標＞
リハビリテーション専門職の一員として、失語症者のリハビリテーションに関わるために、失語症の検査法・評価法・診断法・治療法を実践的に身につける。
＜行動目標＞
1．主要な失語症検査の目的・意義について理解し、説明できる。
2．失語症検査の実施方法を理解し、実施できる。
3．失語症検査の結果の解釈し、失語症の評価診断を実施できる。
4．失語症のリハビリテーションに必要な情報収集を行うことができる。
5．失語症の評価診断から、問題点、目標設定、訓練立案を実施できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション 総合的失語症検査	標準失語症検査（SLTA）の沿革、目的、構成、採点法を学ぶ。	若松千裕
2 ～ 3	総合的失語症検査	SLTA下位検査（聴く）の実施・採点法を学ぶ。	若松千裕
4 ～ 5	総合的失語症検査	SLTA下位検査（話す）の実施・採点法を学ぶ。	若松千裕
6	総合的失語症検査	SLTA下位検査（読む）の実施・採点法を学ぶ。	若松千裕
7 ～ 8	総合的失語症検査	SLTA下位検査（書く）の実施・採点法を学ぶ。	若松千裕
9	総合的失語症検査	SLTA成績のプロフィール作成・分析、言語所見の記載方法を学ぶ（症例1）。	
10 ～ 12	評価・診断、評価報告書の作成	評価報告書の作成：言語所見のまとめ、問題点、目標設定、訓練立案の方法を学ぶ（症例1）。	若松千裕
13 ～ 15	評価・診断、評価報告書の作成	SLTAによる評価報告書の作成方法を学ぶ（症例2）。	若松千裕

【授業実施形態】
面接授業
※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】
レポート30%　定期試験70%
レポートや試験については、良かった点、誤った点について、全体あるいは個別にフィードバックする。

【教科書】
藤田郁代　他　編　「標準言語聴覚障害学 失語症学 第3版」　医学書院　2021年
日本高次脳機能障害学会　編　「標準失語症検査マニュアル　改訂第2版」　新興医学出版　2003年

【備考】

Google Classroomを利用して課題を提出する。

【学修の準備】
授業前に授業内容を確認して、教科書と配布資料を読んで検査方法を予習しておくこと。（20分）
授業後は教科書と配布資料と授業中のメモに基づいて、検査方法や症状の観察ポイント、評価報告書作成に必要な項目を理解すること。（20分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】
DP3．言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。
DP4．関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

【実務経験】
若松千裕（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】
医療機関での実務経験を活かし、失語症検査の実技の習得を指導するとともに、失語症の評価・診断、リハビリテーションについて実践的演習を行う。